

2011 年度 入学 試験 問題

世界史 B

(試験時間 13:15~14:15 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、電算処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。



I 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(32点)

内陸ユーラシアの草原地帯は牧畜を営む騎馬遊牧民の活動する場所となり、その動静は周辺諸国の盛衰に大きな影響を与えた。騎馬遊牧民は組み立て式のテントに起居し、騎乗の技術に長けていた。すぐれた指導者が出現すると強力な軍団を形成して周辺の都市や村落に侵入し、国家を建設することも行われた。しかし、指導者の交代が起こった時など、統率力が弱まると急速に衰え、他の勢力にとって代わられることが頻繁に起こり、栄枯盛衰の激しい歴史が展開された。また、この地域は東西の交易路ともなり、文物が往来する動脈を形成した。

A は前6世紀ごろ黒海北岸・南ロシアに国家を建設し、アケメネス朝の軍隊を破るなどして強盛を誇り、特有の動物文様を持つ馬具や武器と黄金を使用した文化を発展させた。騎乗の技術は周辺の遊牧民の間に広がっていった。東方のモンゴル高原とその周辺地域では前5世紀ごろから騎馬遊牧民が活発に活動するようになり、しだいに遊牧国家が形成されるようになった。モンゴル高原南部の匈奴、天山山脈方面の烏孫、甘粛方面の月氏などが有力であった。なかでも匈奴は強大で B のもとでもっとも栄え、漢の高祖劉邦の軍勢を破って毎年多額の物品を貢納させ、月氏を西方に追いやってタリム盆地を支配した。タリム盆地は東西交易の要衝の地であり、この地を治める利は大きかったが、漢の武帝によりその支配権を奪われ、その後匈奴は分裂を繰り返して衰えてゆく。

タリム盆地や中央アジアのオアシスではソグド人が進出^①してきて、サマルカンドやブハラなどのオアシス都市を建設した。ソグド商人は隊商を組んで物資を東西に運ぶオアシスの道を開き、中国の絹を西方に伝えるのに貢献した。

匈奴が滅んだ後にモンゴル高原を支配するようになったのは鮮卑である。鮮卑は五胡十六国時代の中国の混乱に乗じて長城を越えて中国北部に侵入し、4世紀には拓跋氏が華北に C を建国した。モンゴル高原では鮮卑に代わって5世紀に柔然が台頭した。柔然はタリム盆地など草原の道を支配して東西通商路の経営にあたったが、6世紀中ごろに突厥^②に滅ぼされた。

そのころ、中央アジアのオアシス都市^③を支配していたのは D で、中央アジアからイランに及ぶ領域を支配し、グプタ朝のインドにも侵入した。突厥はササン朝

のホスロー1世と連合してこの王朝を滅ぼし、モンゴル高原からカスピ海にいたる大帝國を建設した。突厥は内紛によって583年にそれぞれモンゴル高原と中央アジアを本拠地とする東西突厥に分裂したが、その後勢力はしだいに衰えた。突厥は騎馬遊牧民の最初期の文字である突厥文字を使用したことでも知られる。

④
突厥の後に有力となったのは鉄勒部族の1つであるウイグルである。744年に東突厥を滅ぼし、モンゴル高原のカラバルガスンを都として大帝國を建設したが、これも南シベリアの遊牧民キルギスに滅ぼされた。

8世紀以降中央アジアのオアシス地帯には西方からイスラーム勢力が進出するようになった。E年にはタラス河畔の戦いでアッバース朝が唐の軍隊を破り、この地を制圧した。⑤
9世紀後半、この地域に中央アジア最初のイスラーム王朝であるサーマーン朝がおこると、周辺のトルコ系遊牧民のイスラーム化が急速に進んだ。

キルギスの侵攻でウイグルが崩壊したのち、トルコ系遊牧民はモンゴル高原から中央アジアのオアシス地帯へと移動した。天山北麓のトルコ系遊牧民はカラ=ハン朝を10世紀中ごろに建国したが、カラ=ハン朝はサーマーン朝の影響を受けてイスラーム教に改宗し、最初のトルコ系イスラーム王朝となった。サーマーン朝はイラン系であったが、カラ=ハン朝とアフガニスタンのガズナ朝の圧迫によってこれが滅びると中央アジア一帯のトルコ化は急速に進み、この地はトルキスタンとよばれるようになった。

10世紀にはいると、トルコ系遊牧民はさらに西進し、アラル海付近に定着するようになった。彼らは周辺のイスラーム教徒の影響を受けてイスラーム教に改宗し、そのなかでFに率いられたトルコ人の集団はセルジューク朝をおこし、⑥
1055年バグダードに入城してアッバース朝カリフからスルタンの称号を得た。セルジューク朝はスンナ派を保護し、その神学と法学を教授する学校を次々と建設した。また、⑦
ビザンツ帝国の支配下にあったアナトリア地方に進出した。セルジューク朝は12世紀半ばにはしだいに衰えて地方政權に分裂していった。

アナトリアに進出していたトルコ人はルーム=セルジューク朝をおこし、その侯國のなかから13世紀末にオスマン朝が生まれた。オスマン1世は西北アナトリアに残るビザンツ帝国領を攻撃してその勢力を駆逐し、ムラト1世のときに1362年にアドリアノーブルを征服してバルカンに進出し、この地を都とした。1396年にはバヤ

ジット1世がハンガリー王ジギスムントの率いる西欧諸国十字軍をニコポリスで破り、さらにビザンツ帝国のコンスタンティノープルを包囲したが、アナトリアに侵入してきた **G** の軍勢にアンカラの戦いで敗れ、オスマン朝のコンスタンティノープル攻略はメフメト2世に引き継がれた。

【設問Ⅰ】 上記の文章の **A** ～ **G** 内に入るもっとも適当な語句、または数字を、記述解答用紙に記入しなさい。

【設問Ⅱ】 下線部①～⑦に関する以下の問の答を、マーク解答用紙にマークしなさい。

問1 下線部①に関し、ソグド人についての次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- (a) ブルガール人の商人集団である。
- (b) 唐の時代に安史の乱を起こした安祿山、史思明はソグド系の出身とされている。
- (c) ゴロアスター教やマニ教を信仰し、それらを中央アジアや東アジアに伝えた。
- (d) ソグド人に担われたオアシスの道による交易は、8世紀以降ムスリム商人による海上貿易が活発化したことにより衰退した。
- (e) アム川・シル川にはさまれたソグディアナ地域を中心に活躍した。

問2 下線部②に関し、突厥は民族としては次のどれに該当するか。

- (a) モンゴル系 (b) イラン系 (c) 漢民族
- (d) トルコ系 (e) ツングース系

問3 下線部③に関し、当時のオアシス都市についての次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- (a) サマルカンドやブハラ近郊ではカナート（トンネル式水路）がよく発達し、主要な農産物としてブドウ、ザクロ、メロンなどの果樹のほか、小麦、トウモロコシ、綿花などが栽培された。

- (b) カシュガルはタリム盆地西部に位置し、イスラーム化・トルコ化が進んだ都市として著名である。
- (c) サマルカンドの市場（バザール）では、都市の手工業品や近郊の農産物と並んで、シベリアの毛皮、中国の絹、インドの香辛料など遠方からの奢侈品も売買されていた。
- (d) クチャには漢代、唐代に都護府がおかれ、東トルキスタンのオアシス都市の中で最大の人口を擁していた。
- (e) 東西トルキスタンのオアシス都市では天山山脈やパミール高原などの雪解け水を利用した農業がおこなわれていた。

問4 下線部④に関連して、中国の周辺民族の文字についての次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- (a) ソグド文字はアラム文字にならったもので、中央アジアの交易に多用された。
- (b) 突厥文字は突厥の歴史や文化を伝えるオルホン碑文に書かれ、アラム文字の系統に属する。
- (c) ウイグル文字はソグド文字を模したもので、のちのモンゴル文字、満州文字の原型となった。
- (d) 契丹文字は漢字を参考にした大字とウイグル文字を参考にした小字からなる。
- (e) 西夏文字はチベット文字と同様にインドで使用されたサンスクリット文字系に属する。

問5 下線部⑤に関し、この戦いを通じて中国の技術が西方に伝えられたが、その技術とは何か。次の中から該当するものを1つ選びなさい。

- (a) 火薬 (b) 羅針盤 (c) 製紙法
- (d) 活版印刷 (e) 陶磁器の製造技術

問6 下線部⑥に関し、セルジューク朝についての次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- (a) 軍制ではマムルークを採用していた。
- (b) キリスト教国による十字軍遠征のきっかけをつくった。
- (c) シーア派のブワイフ朝からイクター制を引き継ぎ発展させた。
- (d) イスラーム世界最古の大学といわれるアズハル学院を設けた。
- (e) 支配地域はイラン、イラク、シリア、アナトリアに及んだ。

問7 下線部⑦に関し、スンナ派とシーア派についての次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- (a) シーア派とは、第4代正統カリフのアリーが暗殺されたとき、アリーを支持していた勢力であり、アリーとその子孫に共同体を指導する権利があると主張した。
- (b) アッバース家はスンナ派やマワリー（非アラブ系改宗者）の協力を得てウマイヤ朝を倒し、アッバース朝を樹立した。
- (c) スンナ派はムハンマドのスンナ（言行）を尊重する多数派のイスラーム教徒である。
- (d) スンナ派は正統カリフのほか、ウマイヤ朝、アッバース朝のカリフも正統な指導者として肯定した。
- (e) スルタンという称号はスンナ派イスラーム国家の君主に与えられたものである。

【設問Ⅲ】 文中の波線部~~~~~に関し、セルジューク朝でイラン人の宰相としてこれらの学校を建設した人物の名前(あ)と、これらの学校の教授で神秘主義（スーフィズム）を容認してスンナ派の神学体系の確立に寄与した人物の名前(い)を、記述解答用紙に記入しなさい。

II 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(34点)

ローマ帝国時代末期からヨーロッパではさまざまな地域において、キリスト教の大司教や司教のおかれた司教座都市が人々を集め、情報の発信地となる。その代表的な例はドイツのケルンで、ここには後にケルン大聖堂が建てられ、巨大な情報の集積地となった。こうした司教座都市を核にいわゆる中世都市がその後活発化し、その地域の活性化を担い、経済的・政治的な力をつけていくようになるが、それでもまだ当時のヨーロッパは、世界の中ではひとつの地域にすぎず、都市は教会を中心にして発達した宗教性の強い共同体の性格を備えていた。

ところが十字軍の遠征をきっかけにこのヨーロッパはアジアの富や文化にふれ、これまでのキリスト教圏とは異なった世界の刺激をうける。これは同時にヨーロッパという地域がより大きな世界へと変貌する契機でもあった。イタリアにおいてこの拡大のチャンスは、まず海岸地域にあらわれた。そこではその周辺地域の領主に対抗し、独立心の強い都市が生まれ、これが経済的に大きく成長することになる。そしてこの海港都市には、外国の香辛料や宝石類などがつぎつぎにもたらされ、海外との仲介貿易が成立する。これらの都市は織物や胡椒などをアジアから運び、これをさらに内陸部や他のヨーロッパの都市へ運ぶ取引などを通じ大いに栄えた。同時に内陸部に存在していた諸都市も負けてはいなかった。ポローニャは多くの学生を集める都市であったが、同時にここで作られた絹製品は後にヨーロッパ中へと輸出される。ミラノは南北貿易の中心地の役割を演じ、大いに繁栄する。フィレンツェは毛織物生産や金融業などを中心に富を蓄えた。この都市のフローリン金貨は、1252年に作られたが、のちには全ヨーロッパの貿易の基準通貨となり、長く使用されることになった。また1492年にはルカ・パチョーリが、当時ヴェネツィア商人が使用していた複式簿記をはじめて学術的に説明し、のちにこの方式がヨーロッパに広まるきっかけを作った。このようにしてイタリアの商業や簿記、金融制度は、国や地域をこえて広がっていった。

しかしながらイタリアの諸都市の中で活発になっていったのは商業・金融といった経済活動だけではなかった。これらの都市において遠隔地貿易などで財産を蓄えた大商人や大貴族は、この富をもとに多くの芸術家たちを保護し、彼らの活動を積極的に援助するようになる。このような貴族や商人たちはしばしばすぐれた指導者でもあっ

たので、彼らに導かれた都市はますます栄えることとなる。こうしてそれまでの伝統的な考え方かわりに、新しい考え方が誕生する素地が整えられることになる。それはこの世を、死んでから神の国へ入るための準備の期間として考えていたそれまでの⑥キリスト教の人間観・人生観とは大きく異なり、人文主義（ヒューマニズム）と呼ばれた。この立場をとる人たちは、キリスト教の聖典である聖書を読み、その成立史や概念を学び深めることではなく、ギリシア・ローマなどの世界で使用されていたラテン語やギリシア語を習得し、そうした過去の文化や文献を研究することで、これまでとは違った新しい世界観を追求しようとした。それは神や一人の絶対者を世界の中心にすえるのではなく、人間をその中心においた考え方である。こうして過去の学問や芸術を学ぶことでおこったヨーロッパにおける過ぎ去った文化の再生運動が、ルネサンスである。人々はビザンツ文化などの遺産を継承しつつ、もう一度古典古代の世界を問い直そうとした。⑧とはいつつも古代社会をもう一度復活させる、というような意味での再生ではなく、古代の精神をくみつつ同時代の人間がより人間らしく生きることを求め、追求しようとしたのである。その結果イタリアの各地でさまざまな文化活動が花開いていくことになった。

このような背景のなかで、たとえばイタリアの国民文学の祖とされるダンテが登場することになる。彼は代表作『神曲』をラテン語ではなく、現在のイタリア語に発展したといわれている 語で書いた。また『アフリカ』や『叙情詩集』などを通じて一種の古代ブームの発端となるような作品を書いた もあらわれた。

美術の分野では「アテネの学堂」や「聖母子像」などの作者で知られている が有名であり、彫刻の分野ではミケランジェロが自由・独立の精神を青年の裸体像を通じて大理石で表現した が残っている。建築の領域ではローマ教皇シクストゥス4世の命令で1473年から1481年にかけて建造された 礼拝堂などが良く知られている。またフィレンツェの誇りとされるサンタ=マリア大聖堂の大円蓋を完成した は、初期ルネサンスの代表的な建築家の一人である。このようにして絢爛豪華なルネサンス文化が、さまざまな分野で咲き誇った。

もっとも1494年にイタリア戦争が起こり、これらの輝かしい文化を創出したイタリアの都市は、他国の戦場となって荒廃する。そしてフランス王アンリ2世、スペイン王 、イギリス女王エリザベス1世が中心となりカトー=カンブレジ条約

が結ばれる。これによってスペインはミラノ・ナポリ・シチリア・サルデーニャなどを獲得したが、フランスはイタリア進出を断念するにいたる。この戦争の結果イタリアでのルネサンスは衰退し、同時に神を世界の中心にすえていたローマ=カトリック教会の影響力も相対的に弱まる。以後ヨーロッパ全域にわたって強い国家体制が形成される。人間を中心とした世界観は、本来考えられたものとは異なった形をとることになっていくが、その中心的な考え方はますます広まっていくことになる。イタリアの限定的な地域で始まったこの思想は、その揺籃の地イタリアを離れアルプス以北^⑩の地域へと移っていった。それは人間復興の精神が、グローバルな考え方として定着する第一歩でもあった。

【設問Ⅰ】 上記の文章の ～ 内に入るもっとも適当な語句を、記述解答用紙に記入しなさい。

【設問Ⅱ】 下線部①～⑩に関する以下の問の答を、マーク解答用紙にマークしなさい。

問1 下線部①について、ケルン大聖堂の建築様式に関し**該当するものを1つ**選びなさい。なお該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) ビザンツ様式
- (b) ロマネスク様式
- (c) ゴシック様式
- (d) バロック様式

問2 下線部②について、十字軍遠征に際し結成された組織として**該当しないものを1つ**選びなさい。なお該当しないものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) ドイツ騎士団
- (b) ヨハネ騎士団
- (c) テンプル騎士団
- (d) 宗教騎士団

問3 下線部③について、イタリアの海港都市に関し該当するものを1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合は(e)を選びなさい。

- (a) フェラーラ
- (b) ボルツァーノ
- (c) モンテ=カシノ
- (d) ジェノヴァ

問4 下線部④について、この都市のメディチ家の記述に関し以下の文のうち誤っているものを1つ選びなさい。なお誤っているものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) メディチ家は、ロンバルディアを領土とした公爵家の出身であったが、のちに銀行家へ転身し成功を収めた。
- (b) メディチ家の当主コジモ=デ=メディチは、フィレンツェの国家元首となった。
- (c) メディチ家は、アカデミーを創設し、プラトンや新プラトン主義の研究を盛んにした。
- (d) コジモ=デ=メディチの孫にあたるロレンツォ=デ=メディチは、フィレンツェで専制君主として振る舞っていた。

問5 下線部⑤について、この都市の記述に関し以下の文のうち誤っているものを1つ選びなさい。なお誤っているものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) ヴェネツィアは、自治都市であったが、のちに都市共和国となった。
- (b) ヴェネツィアは、第4回十字軍以降は東地中海に植民地を持つようになった。
- (c) ヴェネツィアは、スペインなどと連合し、レパントの海戦でオスマン海軍を破った。
- (d) 『ヴェニス商人』とは、ヴェネツィアの商人と高利貸との争いを、法廷場面を交えて描いた劇である。

問6 下線部⑥について、キリスト教に関して以下の文のうち誤っているものを1つ選びなさい。なお誤っているものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) イエスが選んだヨハネ・ペテロ・ヤコブらの直弟子は使徒とされている。彼らは福音を伝え、教会を設立した。
- (b) イエスの言行を記録した部分で、マタイ・マルコ・ルカ・ヨハネの4人によるとされているものを四福音書と呼ぶ。内容は、イエスの伝記である。
- (c) 教会によって承認された古代および中世初期の神父のことを教父と呼ぶ。彼らは教会の発展に大きく貢献した。
- (d) 教会とは信徒の団体・集会所をさす。聖書の中でキリスト教徒の団体を示す語としてギリシア市民の民会を使用したところに始まる。後には彼らの集まるその建物を教会と呼ぶようになった。

問7 下線部⑦の人文主義を代表する人物について、以下の文のうち誤っているものを1つ選びなさい。なお誤っているものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) ネーデルラント出身のエラスムスは『愚神礼賛』を書き、権力を追求する聖職者や王侯の姿を痛烈に風刺した。
- (b) ラブレールはフランスの作家で、巨大な自然児ガルガンチュアとその子パンタグリュエルを主人公とした物語を発表して、当時の社会を痛烈に批判した。
- (c) ブリュージュルはフランドルの画家で、農民や庶民の生き生きとした姿を描写し、同時代の人間模様を次々に描いた。
- (d) セルバンテスはスペインの作家で、激動する社会の矛盾を『ドン=キホーテ』という作品の中で、ユーモアとペーソスあふれた形で描き出した。

問8 下線部⑧のギリシア・ローマの文化を代表する人物について、以下の文のうち誤っているものを1つ選びなさい。なお誤っているものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) シチリア島の出身でムセイオンに学び、浮体の原理を発見したのはアルキメデスである。

- (b) アテネの哲学者で、ソフィストを批判して普遍的な真理の存在を主張したが、後に裁判で死刑の判決を受けたのはソクラテスである。
- (c) 散文家・雄弁家として知られているが、カエサル・アントニウスと対立し、殺害されたのはキケロである。彼の残した文体は、ラテン語散文の模範とされた。
- (d) 『ガリア戦記』でゲルマニアの諸事情に触れ、勇敢で素朴なゲルマン人の姿を克明に描いたのは、タキトゥスである。

問9 下線部⑨について、ビザンツ文化に関する以下の文のうち誤っているものを1つ選びなさい。なお誤っているものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) ユスティニアヌスがトリボニアヌスらに命じて編集させた古代ローマ法の集大成が『ローマ法大全』と呼ばれる。
- (b) ビザンツ皇帝レオン3世は、イエスや聖母マリアなどの聖画像の制作・崇拜を禁止する法令を發布したが、禁止令そのものはのちに解除されることになる。
- (c) 中国から蚕卵を入手し、絹織物業をおこし、これをビザンツ帝国に定着させたのはヘラクレイオス1世である。
- (d) 石、貝殻、ガラスなどのちいさな部分を漆喰の壁にはめ込み独自の模様や絵画をつくりあげたものがモザイク壁画であるが、これはとくに教会建築で発達した。

問10 下線部⑩のアルプス以北を代表する人物名について、該当しないものを1つ選びなさい。なお該当しないものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) デューラー
- (b) チョーサー
- (c) ファン=アイク
- (d) ドナテルロ

III 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(34点)

20世紀の前半期、世界史は悲劇的様相を帯びていた。歴史上、「戦間期」と呼ばれる約20年間をはさんで、1914年から1918年（第一次世界大戦）と1939年から1945年（第二次世界大戦）の二度にわたって、二つに分かれた列強が長期に戦争を続けたからであった。二つの世界大戦の戦争死者数は、民間人を含め推定8000万人超、死傷者総数は、一説に、交戦国総人口の約四分の一に及ぶ、とされるほどである。

第一次世界大戦開戦時、ドイツのヴィルヘルム2世は、前線に出征する兵士に向かって、落ち葉の季節となる前に諸君は家に帰るであろう、と演説したという。各国指導者はこの戦争を数週間の短期戦と考えていたのであった。しかし予測とは異なり長期の総力戦となった。社会のあらゆるものを戦争遂行に動員せざるを得なくなった。国民の中に厭戦、反戦気分が高まると、交戦各国は、戦争遂行体制の強化を図り、首脳が「戦争目的」を改めて示して、自国の正義、敵国の不正義を訴え、心理的にも人びとを動員した。

第一次世界大戦では、植民地地域が直接の戦場となることはほとんどなかったが、人的・物的には多くの犠牲が払われた。イギリスの植民地インドからは、戦後の自治の約束とひきかえに、兵士約150万人が戦場におくられ、フランスはインドシナから兵士、労働者に加え、食料を徴発し、アルジェリア、モロッコからも大量動員した。動員総数は300万人を超えたと推定されている。列強は植民地からも、戦争動員する必要に迫られるようになっていったのである。

第一次世界大戦の講和会議は民族自決を掲げた。一民族で一国家をつくる国民国家の理想は、人びとの心をとらえた。だが戦勝列強は勝手に地域を分割し、民族を分断、国家の領域と民族の分布が一致せず、おしつけられた国境線の枠内で独立国家がつくられることになった。各地で、必要以上にナショナリズムを煽る動き、差別と憎悪が広まっていった。それは、連合国勝利を決定づけ、国際舞台で発言力を増したアメリカにも生じた。戦後経済の繁栄はアメリカ社会に変化をもたらしていた。人口は都市が農村を上回り、大衆文化も発展をみた。一方、東欧・南欧及びアジアからの移民増加、北部工業地帯に向かう多数の黒人移住者など、社会変動への不安感が高まり、また共産主義への警戒感から、アングロ・サクソン系白人中産階級に著しく保守主義が

強まっていた。

第一次世界大戦で敗れたオスマン帝国は、一気に解体へと向かった。 A 条約によって領土が分割された。小アジア、及びヨーロッパの領土の一部にも、連合軍に支援された B 軍が進攻した。この危機に、ムスタファ=ケマルが、1920年、アンカラでトルコ大国民議会を組織、祖国解放運動を指導した。1922年、イズミルから B 軍を撃退し、その一方でスルタン制を廃止し、オスマン帝国を解体へと導いた。翌23年、改めて連合国と C 条約を締結して、国土の一部回復、不平等な対外関係を象徴する治外法権の廃止、 D 自主権の回復に成功した。アンカラを首都にトルコ共和国が成立し、ケマルは大統領に就任した。彼はアタテュルク（トルコの父）とよばれた。

フセイン・マクマホン協定を無視した英仏両国が、オスマン帝国のアラブ人が多く住む地域を、国際連盟委任統治領として4分割した。フランスは E の2ヵ国を統治し、イギリスはフセインの2人の子をヨルダンと F の2ヵ国で国王とした。そしてパレスチナには、バルフォア宣言にもとづいて、ユダヤ人の移民が認められた。欧米諸国からの移住者が増加し、やがてアラブ人との対立が生じていった。

エジプトは、第一次世界大戦が始まると、イギリスがオスマン帝国から切り離して保護国とした。やがてワフド党が独立要求を掲げ、大衆の支持を得ていった。1922年、ムハンマド=アリー朝のエジプト王国が独立した。そして1936年には、イギリス=エジプト条約が結ばれ、主権をほぼ回復した。だが、イギリスはなお実質的支配権をにぎり続けた。⑥ また、アラビア半島では、イブン=サウードがしだいに勢力を強めて、1932年、サウジアラビア王国が樹立された。イスラーム教のきびしい実践と国王を中心とする政治⑦が行なわれた。

この西アジア地域は、石油埋蔵資源が豊富だった。石油は、第一次世界大戦を経て、最有力動力エネルギー源となった。それ故に、オスマン帝国敗北後に、石油資源の探查・開発・生産に、欧米列強資本が大量投下され、独立した国に対する列強の圧力も続いた。⑧

【設問Ⅰ】 上記の文章の A ～ F 内に入るもっとも適当な語句を、記述解答用紙に記入しなさい。

【設問Ⅱ】 下線部①～⑧に関する以下の問の答を、マーク解答用紙にマークしなさい。

問 1 下線部①に関連した以下の文で、誤っているものを1つ選びなさい。誤りの文がない場合は(e)を選びなさい。

- (a) 第二次世界大戦は、ドイツがポーランドに侵攻、イギリス、スペインが、ドイツに対して宣戦布告したことに始まる。
- (b) ソ連は、第二次世界大戦開戦時、独ソ不可侵条約秘密条項により、ポーランドに侵攻、ドイツとポーランドを二分割して占領した。
- (c) ソ連は、第二次世界大戦が始まると、バルト三国を占領したのち、併合した。
- (d) ソ連は、第二次世界大戦開戦後、フィンランドに領土要求を突きつけて、戦争をしかけた。この戦争のため、1939年末、ソ連は侵略国として国際連盟を除名された。

問 2 下線部②に関連した以下の文で、誤っているものを1つ選びなさい。誤りの文がない場合は(e)を選びなさい。

- (a) 1916年、イギリスには挙国一致内閣としてロイド=ジョージ政権が成立した。
- (b) ドイツは、1916年に、ビスマルクをはじめとする軍部中心の政治体制となった。
- (c) フランスに挙国一致内閣として、1917年、クレマンソー政権が成立した。
- (d) 第一次世界大戦末、イギリスでは選挙法の改正がなされ、初めて、女性に参政权が与えられた。

問 3 下線部③に関連した以下の文で、誤っているものを1つ選びなさい。誤りの文がない場合は(e)を選びなさい。

- (a) 1919年、独立の約束を無視するイギリスに抗議する集会に、無差別発

砲したアムリットサル事件が起こった。

- (b) 英インド政庁は、1919年に、ローラット法を發布し、インド人を令状なしで逮捕、裁判なしで投獄できる弾圧体制を作った。
- (c) 塩の専売法に反対し、1930年、ガンディーが進めた「塩の行進」は、インド独立運動をさらに発展させるものとなった。
- (d) 第二次世界大戦が始まると、インド独立運動組織の国民会議派は、イギリスに対する戦争協力を、終始一貫して拒否しつづけた。

問4 下線部④に関連した以下の文で、誤っているものを1つ選びなさい。誤りの文がない場合は(e)を選びなさい。

- (a) オスマン帝国の属領だったアルジェリアは、1830年、ブルボン朝最後の王シャルル10世によって占領された。
- (b) アルジェリアは、1842年、ルイ=フィリップによって直轄領となり、1870年代以降、入植者(コロン)が急激に増加していった。
- (c) 第二次世界大戦後、フランスが採った植民地支配維持政策のため、アルジェリアの民族独立・解放の闘争は激烈になったが、ようやく1962年に独立した。
- (d) アルジェリア独立を受け入れたのは、フランス第四共和国大統領ミッテランである。

問5 下線部⑤に関連した以下の文で、誤っているものを1つ選びなさい。誤りの文がない場合は(e)を選びなさい。

- (a) この時期(1920年代)に、二人のイタリア系移民の無政府主義者が、無実の殺人罪に問われ、処刑される、冤罪事件があった。これをサッコ・ヴァンゼッティ事件という。
- (b) この時期(1920年代)に、反黒人・反ユダヤ・反移民をとる秘密結社が勢力を広げ、また黒人・アジア人と白人との結婚を法律で禁ずる州も増えた。
- (c) 1924年移民法は出身国別の移民割当数を設定し、アジア系移民を帰化

不能外国人として入国禁止とした。

- (d) 人種差別撤廃運動は、第二次世界大戦後に激化し、1964年に公民権法が制定された。

問6 下線部⑥に関連した以下の文で、誤っているものを1つ選びなさい。誤りの文がない場合は(e)を選びなさい。

- (a) イギリスは、19世紀末期に、エジプトで起きた反乱鎮圧を機に、スエズ運河地帯に軍隊をおき、エジプト支配の基礎としてきたが、1954年になって撤兵した。
- (b) ナイル川上流に建設されたアスワン=ハイダムは、ダム建設で水没するエジプト南部の古代遺跡で、世界遺産アブシンベル神殿の大規模移転で知られる。
- (c) アスワン=ハイダム建設の資金提供を、1956年、アメリカが中心となって凍結したため、スエズ運河通行料を建設資金にしようと、ナセル大統領が運河国有化を宣言した。
- (d) エジプトのスエズ運河国有化宣言に対して、1956年、イスラエル、イギリス、アメリカがしかけた戦争をスエズ戦争という。

問7 下線部⑦に関連した以下の文で、誤っているものを1つ選びなさい。誤りの文がない場合は(e)を選びなさい。

- (a) アラビア半島の豪族サウード家は、18世紀に、サウード王国を建国した。
- (b) サウジアラビア王国の国教は、ワッハーブ派である。
- (c) サウジアラビア王国は、イスラームの聖地メッカ、メディナを守護する立場にある。
- (d) サウジアラビア王国は、世界有数の産油国であり、国際連合設立にも参加した。

問 8 下線部⑧に関連した以下の文で、誤っているものを1つ選びなさい。誤りの文がない場合は(e)を選びなさい。

- (a) 第二次世界大戦後、1960年代までの石油産業は、少数の石油メジャーが中東を中心に大型原油資源を合併その他の方法で共同支配する体制が続いた。
- (b) モサデグ政権下イランは、1951年、同国石油産業を独占していた外国石油会社を国有化したが、アメリカなどの妨害で失敗した。
- (c) アラブ産油国は、1968年に結成していたアラブ石油輸出国機構を通じて、1973年の第四次中東戦争の際に、親イスラエル諸国石油禁輸措置を実施した。この結果生じた世界経済上の大打撃は、「第二次石油危機」とよばれる。
- (d) 1960年に、世界の主要産油国が、石油メジャーに対抗するため結成した一種のカルテル組織を、石油輸出国機構という。

